

## なるほど！ザ・宮沢賢治ワールド

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力

## 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年、「C読むこと」の指導事項「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」の内容を受けて設定したものである。ここでは、「C読むこと」の言語活動例「ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。」を具体化し、自分を客観的に見つめることができ始めた6年生が作者の生き方や考え方にふれた伝記と作品を関連付けて読み、自分の考えを広げたり深めたりする力を育成することをねらいとする。

本単元では、教材文として『やまなし』と、宮沢賢治の伝記『イーハトーヴの夢』を扱う。教材文『やまなし』は、「二枚の青い幻灯」として映し出された「五月」「十二月」の二つの場面から構成されており、谷川の底に棲むかきの目を通して、宮沢賢治の独特の世界が描かれている。作品には比喩表現や擬態語、擬声語、色彩語がちりばめられ、幻想的かつ細やかな宮沢賢治の優れた描写によって、作品の世界を想像しやすい。伝記『イーハトーヴの夢』は、宮沢賢治に深く関わる筆者が、小学生向けに書きおろした評伝である。深い知識と高い理想をもつ宮沢賢治を知り、生き方や考え方を作品と関連付け、宮沢賢治との対話を深めながら主体的な読みを展開していくことができる。以上のことから、本単元で扱う二つの教材は、作者の生き方や考え方と作品の関連や優れた叙述について自分の考えをもちながら読む力を身に付けさせるのに適していると考えられる。

- 本学級の児童は、平成27年度全国学力・学習状況調査において、国語A<sup>6</sup>「登場人物の相互関係をとらえる」問題の正答率は約70%であった。また、国語B<sup>3</sup>「場面の移り変わりに注意し、登場人物の行動や気持ちの変化について想像して読む」問題の正答率は、約76%であった。各場面の様子をとらえると同時に、場面と場面とを関係付けて読むことが十分でないことから、登場人物の相互関係から人物像をとらえ、内面にある深い心情を想像するなど、全体を構造的に読み取る力が十分でないことが明らかとなった。一学期には会話文や行動、心内語に着目しながら登場人物の性格や人物の揺れ動く心情や、心情の省略法のダッシュ（——）などの表現の工夫に着目し、直接的に描写されていない登場人物の心情を読み取り、自分の考えをもつことを重点的に指導してきた。しかし、登場人物の相互関係や心情から人物像やその役割をとらえたり、優れた描写や作品の題材を意識させる表現や内容に気付いて自分の考えをもったりすることにはまだ課題がある。

- **主体的に学ぼうとする「課題発見・解決学習」の単元開発**

指導に当たっては、導入時に「賢治クイズ」を行い、宮沢賢治について関心をもたせるとともに『注文の多い料理店』を読み、作品のおもしろさ、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージを考えることで、宮沢賢治像に触れ、主体的に作品を読んでいこうとする動機付けを行う。伝記『イーハトーヴの夢』では、宮沢賢治の生き方や考え方と作品を関連付けて読もうとする課題をもたせ、その意識を連続発展できるように「なるほど！ザ・宮沢賢治ワールド」と題し、「座談会」の場を設定する。座

談会では、宮沢賢治が作品を通して、伝えたかったことや宮沢賢治の生き方、考え方を友だちと交流するという**課題の設定**を行う。座談会に向けては宮沢賢治の作品コーナーを教室内に設置し、朝読書の時間や給食準備中、家庭学習などの読書環境を整え、並行読書をさせる。また、『よだかの星』『雪渡り』『カイロ団長』の3作品については、共通の並行読書作品として扱う。この3作品を用いて本教材で身に付けた読みの力を活用し、宮沢賢治の生き方や考え方や作品を関連付けて読んだことを座談会で伝え合い、自分の生き方についての考えや読書の幅を広げるきっかけとする。

**情報の収集**の段階では、まず、『注文の多い料理店』の読みをもとに、宮沢賢治の作品のおもしろさ、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージ、宮沢賢治像について考えていこうとする目的意識を持たせる。次に、『やまなし』の「五月」と「十二月」の場面を比較して読み、宮沢賢治が「かわせみ」と「やまなし」にもたせた意味や役割について交流したり、象徴性や暗示性の高い描写や作品から読み取った宮沢賢治のメッセージについて座談会を行ったりして自分の考えをもたせる。**整理・分析**の段階では、並行読書した3作品（『よだかの星』『雪渡り』『カイロ団長』）の中から座談会で交流する作品を選び、視点に沿って自分の考えをもたせる。また、座談会を通して、作品に対する疑問や、叙述を根拠に作品を解釈した自分の考えを交流させる。さらに、伝記『イーハトーヴの夢』を通して、宮沢賢治の生い立ちや出来事、生き方や考え方や、作品が生まれた背景を読み、宮沢賢治の生き方や考え方に対する自分の考えを交流させる。

**まとめ・創造・表現**の段階では、並行読書した作品（『よだかの星』『雪渡り』『カイロ団長』）について座談会を行い、作品相互や、作品と宮沢賢治の生き方や考え方を関連付け、自分の考えを交流させ、宮沢賢治の世界観を味わわせる。**振り返り**の段階では、宮沢賢治や宮沢賢治の作品について、自分の考えを、学んだこと、もっと知りたいこと、自分の生き方や考え方とつなげてまとめる。さらに、学習をきっかけに、読書の範囲を広げたり、宮沢賢治の生き方や考え方を通して、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えたりする。

#### ○ 「学び合い」における協働的な思考の場の工夫

並行読書した3作品と伝記を関連付けて宮沢賢治の生き方や考え方について自分の考えをもたせるために、ミニ座談会Ⅱと全体座談会Ⅱの2段階で座談会を行う。座談会では、並行読書3作品と伝記『イーハトーヴの夢』で読み取ったことを、視点に沿って多面的にまとめた自分の考えの表をもとに交流させる。表はYチャートを用い、宮沢賢治の生き方や考え方や、並行読書した3作品を視覚的に関連付けることができるよう工夫する。まず、ミニ座談会Ⅱでは、並行読書した3作品から各作品2名ずつの代表者6名で作品から読み取った宮沢賢治のメッセージを視点として行う。他の児童は、聴衆として座談会に参加し、代表者の考えと自分の考えを比較し、共通点や相違点を見付ける。次に、全体座談会Ⅱは学級全体で行い、聴衆としてミニ座談会Ⅱに参加した児童が、代表者の考えをもとに新たに付け加えたり関連付けたりした自分の考えを交流する。ここでは、ミニ座談会Ⅱを発展させ、作品と宮沢賢治の生き方や考え方を関連付け、宮沢賢治の生き方や考え方について意見を交流する。座談会では、自分の考えの理由や根拠となる叙述、象徴性や暗示性の高い描写から読み取ったことを明らかにしながら交流させるために、「どうして?」「どこから、そう思った?」「確かに」などの言葉を効果的に用いて、気軽な雰囲気互いに補完し合いながら考えを出し合えるようにする。また、友だちの考えとの共通点や相違点を見付け、自分の考えを見つめ直すことで、協働的に学ぶことよさを実感させ、宮沢賢治の生き方や考え方に対する自分の考えを深められるようにする。

## 単元の目標及び内容について

- 伝記や作品を読み、作者の生き方や考え方について考えようとする。  
【関心・意欲・態度】
- 作者の生き方や考え方と作品を関連付けて読み、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
【読むこと エオ】
- 叙述における比喩や反復、擬態語・擬音語、色彩語などの表現の工夫に気付き、その効果について理解することができる。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ)】

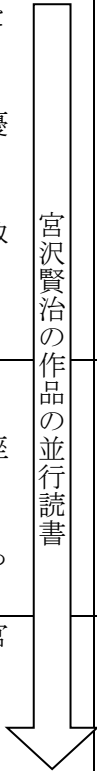
## 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
【単元を貫く言語活動】 宮沢賢治の伝記や作品を読み、自分の考えを座談会で交流する。		
伝記や作品を読み、伝記に描かれた人物の生き方や考え方と作品を関連付け、進んで自分の考えをもとうとしている。	伝記に描かれた人物の生き方や考え方と作品を関連付け、作者のメッセージを読み取り自分の考えを広げたり深めたりしている。 (エオ)	叙述における比喩や反復、擬態語・擬音語、色彩語などの表現の工夫に気付き、その効果について理解している。 (イ(ケ))

## 指導と評価の計画

全8時間（本時7／8時間）

次	時	学習活動	評 価			
			関	読	言	
一	1	<b>課題の設定（1）</b> ○「賢治クイズ」で作者の意外なエピソードを知るとともに『注文の多い料理店』にこめられた作者の考えやメッセージを考えることにより、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「なるほど！ザ・宮沢賢治ワールド」宮沢賢治の伝記や作品を読み、座談会を行うことを知る。	○			・宮沢賢治に関心を持ち、進んで作品を読もうとしている。  行動観察 ノート
	2	<b>情報の収集（3）</b> ○『注文の多い料理店』の読みをもとに、宮沢賢治や宮沢賢治の作品に関心をもつ。 ・作品のおもしろさ、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージを交流する。			○	・叙述における反復、や擬態語・擬音語、色彩語、掛詞などの表現の工夫に気付いている。  行動観察 ノート
	3	○『やまなし』の「五月」と「十二月」の場面を比較して読み、宮沢賢治が「かわせみ」と「やまなし」にもたせた意味や役割について交流する。			○	・登場人物の相互関係や優れた表現に着目して読み、自分の考えをもっている。  行動観察 ノート

次	時	学習活動	評価					
			関	読	言	評価規準	評価方法	
三	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『やまなし』で読み取ったことをもとにしてミニ座談会Ⅰと全体座談会Ⅰを行う。</li> <li>・ミニ座談会Ⅰの視点：①疑問点 ②優れた描写 ③作品から読み取った宮沢賢治のメッセージ</li> <li>・全体座談会Ⅰの視点：作品から読み取った宮沢賢治のメッセージ</li> </ul>	宮沢賢治の作品の並行読書 		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品から読み取った宮沢賢治のメッセージの共通点や相違点を見付け、自分の考えをもっている。</li> <li>・叙述中における比喻や擬態語・擬音語、色彩語、暗示的な表現の工夫に気付いている。</li> </ul>	行動観察 ノート
	5	<p><b>整理・分析（２）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○並行読書 3 作品から 1 作品を選び、座談会の視点に沿って自分の考えをもつ。</li> <li>・座談会の視点：①疑問点 ②作品から読み取った宮沢賢治のメッセージ</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の相互関係や優れた表現、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージを関連付けて読み、自分の考えをもっている。</li> </ul>	行動観察 ノート
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝記『イーハトーヴの夢』を読み、宮沢賢治の生き方や考え方に対する自分の考えを交流する。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治の行動や生き方を描き出す優れた描写に着目して読み、自分の考えをもっている。</li> </ul>	行動観察 ノート
	7	<p><b>まとめ・創造・表現（１）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ミニ座談会Ⅱをもとに全体座談会Ⅱを行い、作品と宮沢賢治の生き方や考え方を関連付け、自分の考えをもつ。</li> <li>・ミニ座談会Ⅱの視点：作品から読み取った宮沢賢治のメッセージ</li> <li>・全体座談会Ⅱの視点：①作品と作品の関連付け②作品と宮沢賢治の生き方や考え方の関連付け</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【本時】</b></p>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治の生き方や考え方と作品を関連付けて作品にこめられたメッセージを読み取り、自分の考えをもっている。</li> </ul>	行動観察 ノート
	8	<p><b>振り返り（１）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を通して、宮沢賢治や宮沢賢治の作品について、自分の考えを広げたり、深めたりしたことを振り返る。</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。</li> </ul>	行動観察 ノート

### 本時の学習

#### （１）本時の目標

- 宮沢賢治の生き方や考え方と作品を関連付けて読み、自分の考えを広げることができる。

#### （２）本時の評価規準

- 宮沢賢治の生き方や考え方と作品を関連付けて作品にこめられたメッセージを読み取り、自分の考えをもっている。

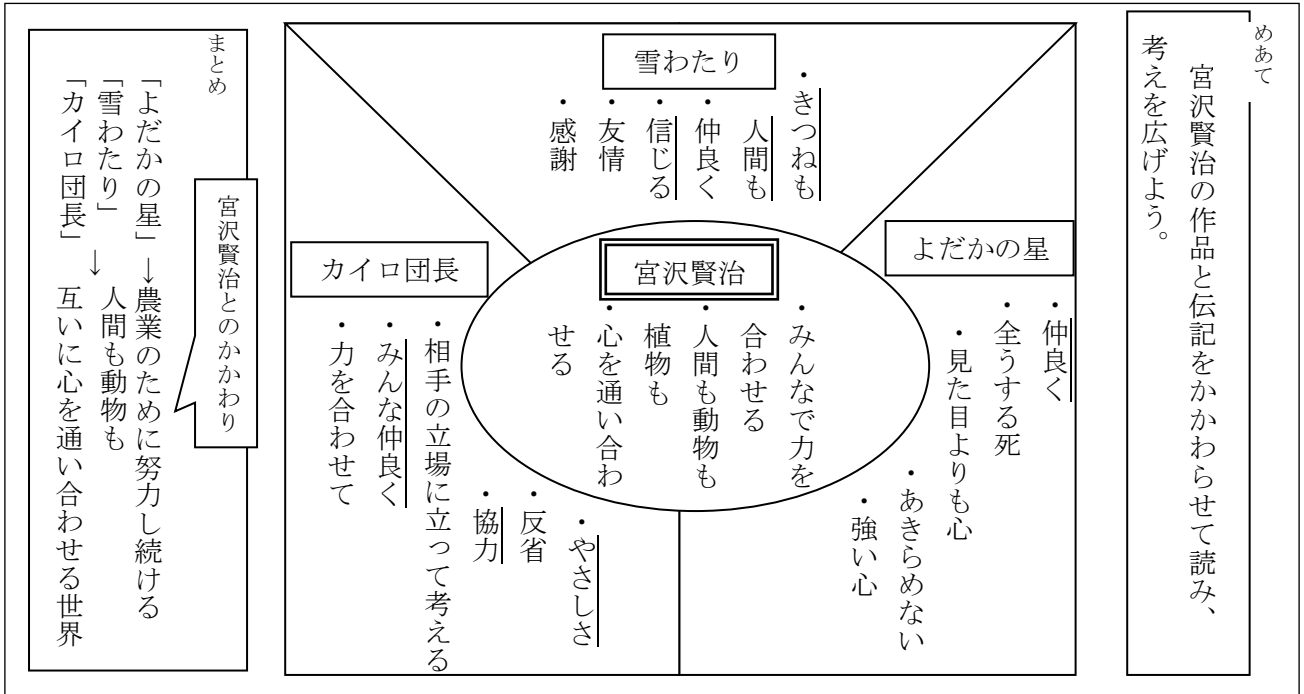
**【読むこと】**

(3) 本時の学習展開 (7時間目/全8時間)

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。 ・伝記『イーハトーヴの夢』 ・宮沢賢治の生き方・考え方 ・座談会の視点</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>宮沢賢治の作品と伝記をかかわらせて読み、自分の考えを広げよう。</p> </div>	<p>◇伝記『イーハトーヴの夢』を読み、宮沢賢治の生き方や考え方に対する自分の考えを交流したことを想起させる。 ◇並行読書してきた作品ごとの代表者によるミニ座談会Ⅱを通して、全体座談会Ⅱで宮沢賢治の生き方や考え方と作品を関連付けることを伝える。</p>	
<p>2 代表者によるミニ座談会Ⅱを行う。 ○話し合いの視点に沿って、ミニ座談会Ⅱを始めましょう。 作品から読み取った宮沢賢治のメッセージ <b>よだかの星</b> ・いじめられる ⇒仲良く ・やけて死んでも構いません ⇒全うする死 <b>雪渡り</b> ・3人で踊る ⇒狐も人間も仲良く ・狐の団子を食べる ⇒信じる <b>カイロ団長</b> ・トノサマガエルがアマガエル達に謝り和解 ⇒反省、みんな仲良く</p> <p>3 全体座談会Ⅱを行い、作品と宮沢賢治の生き方や考え方を関連付ける。</p>	<p>◇座談会の視点として、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージについて交流させる。 ◇作品から読み取った宮沢賢治のメッセージの発言時には、考えの根拠となる叙述を提示するようにし、確認させる。 ◇聴衆として参加している児童は、代表者と自分の考えや、作品と作品を関連付けながら共通点や相違点を見付けさせる。 ◆友だちの考えから自分の考えに近いものを見付けるように声をかけ、自分の考えをもたせる。</p>	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>□思考の場の工夫 <b>関連付ける</b> 作品と宮沢賢治の生き方や考え方を関連付ける。(Yチャート)</p> </div> <p>○ミニ座談会Ⅱを通して、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージを基に生き方や考え方を発表しましょう。 <b>よだかの星</b> ・いじめられる ⇒見た目よりも心</p>	<p>◇聴衆としてミニ座談会Ⅱに参加した児童が代表者の考えをもとに付け加えたい内容や関連付けた自分の考えを互いに補完し合いながら出し合えるようにする。 ◇意図的指名により、話し合いを深められるようにする。 ◆共感したことや納得したことを問いかけ、発表できるようにする。</p>	<p>☆伝記と作品を関連付けて読んでいる。</p>

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質・能力</p>
<p>・空へ飛び上がった ⇒あきらめない</p> <p><b>雪渡り</b></p> <p>・今夜のご恩は決して忘れません ⇒お互いに信じる</p> <p><b>カイロ団長</b></p> <p>・2回目の王様の命令 ⇒相手の立場に立って考える</p> <p>○宮沢賢治が追い求めたことや理想には、どのようなものがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで力を合わせる</li> <li>・互いに優しい心を通い合わせる</li> <li>・人間も動物も植物も</li> <li>・人間が人間らしい生き方</li> </ul> <p>4 本時の学習をまとめる。</p> <p>○作品から読み取った宮沢賢治のメッセージと宮沢賢治が追い求めたことや理想との関係をまとめましょう。</p>	<p>◇前時の伝記『イーハトーヴの夢』を読み、宮沢賢治の生き方や考え方に対する自分の考えを交流したことを想起させる。</p> <p>◇伝記と作品との関連を視覚的に板書で整理する。</p> <p>◇文頭「作品と伝記をかかわらせて読むことで～」を提示する。</p> <p>◆書き進めにくい児童には、作品とともに伝記を読むとどんなことがよくわかるかを問いかけ、抵抗なく取り組めるようにする。</p>	<p>◎宮沢賢治の生き方や考え方と作品を関連付けて読みながら、自分の考えをもっている。〔読む能力〕(ノート)</p>
<p><b>★めざす児童の姿</b></p> <p>まとめ(自分の考えがミニ座談会Ⅱ、全体座談会Ⅱを通して、作品から読み取った宮沢賢治のメッセージと宮沢賢治の生き方や考え方を関連付けて広がったことを書いていけばよい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座談会を通して、「よだかの星」のよだかが「星になりたい。」とあきらめないで空を飛び上がって努力したところは、宮沢賢治が農業のために努力し続けたところとつながると思った。</li> <li>・座談会を通して、宮沢賢治の夢だった人間も動物も互いに心を通い合わせる世界が、「雪渡り」の中で紺三郎が団子を食べてくれた四郎たちにお礼を言うところにも表れていると思った。</li> <li>・座談会を通して、「カイロ団長」の2回目の王様の命令後、あまがえるがとのさまがえるに水をやったり曲がった足を直してやったりしてやさしくするところは、宮沢賢治の互いに心を通い合わせてほしいという夢が込められていると思った。</li> </ul>		
<p>◇次時は単元の学習を振り返ることを伝える。</p>		

(4) 板書計画



〈本時で使用する 思考ツール〉

Yチャート

